

## 2023\_1215「北極圏の流星（写真）」日々の理科 3417号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

今年「ふたご座流星群（ふたご群）」の観測条件が良く、私もどこかで直接観望したいと思っていました。しかし毎日出張続きで、フィールドに出かける余裕は全くありませんでした。こういう時に頼りになるのは、遠隔観測のカメラです。

まず浅間山の観測カメラの画像を確認しましたが、どうもあまり天気が良くなく、目だった流星は写っていませんでした。次に、スウェーデン北部の北極圏に設置したカメラの画像を確認してみました。やはしこの1週間、雪の日が続いていて、星空の状態は悪く、オーロラもほとんど観測されていませんでした。それでも12月15日の午前4時過ぎ（現地時刻）に、東側に設置したカメラがいくつもの流星をとらえていました。

この写真はその1枚ですが、短く光軌を残した流星と、左下に半円形の「かんむり座」、右下の輝星はうしかい座の「アルクトゥールス」です。全体的に氷霧（凍った霧）がかかっている「シーイング」は最低なのですが、樹氷も写っていて真冬の北極圏らしい幻想的な写真だと思います。ただし、この流星がふたご群由来のものなのか、散在流星の一つなのかははっきりしませんでした。

（2023年12月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測）

